

Everyday, with Designs

デザインは幸せのかたち

デザインの背後にデザイナーの気もちがあり、
デザインの向こうに人々の暮らしがある。

デザインは特別な人のためではなく、みんなのもの。

いつでもどこでも北欧デザインがあり
それらを個々のライフスタイルに
取り入れることで一人ひとりの暮らしが
少しずつ豊かになっていく。

一つひとつのデザインのなかに、
北欧の自然や人々の暮らしを感じていただき、
心地よい幸福感をプロデュースしていきたい・・・。

そんな思いで、皆さまのお役にたてれば、と思います。



Vackrare vardagsvara

- 日用品をより美しく -
Gregor Paulsson, 1919

LR



北欧デザインの魅力①

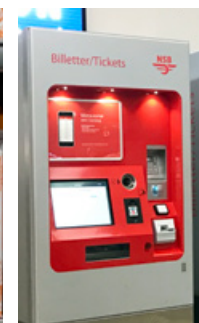
暮らしに溶け込むデザイン

暮らしを快適にしてくれる、日常のいたるところに溶け込んでいるデザイン。
スーパーマーケットの棚には楽しいパッケージが並び、毎日使う地下鉄の駅は
世界一長い美術館と言われるほど凝ったデザインが施されています。

公衆トイレや駅の券売機さえも目に鮮やかな色が使われています。北欧では、まるで空気のように、
当たり前心地のよいデザインが存在していて、それを目にすると、人々は幸せな気持ちになります。

そんな北欧の目に心地いいデザインは、みんなのためのデザインと言われています。

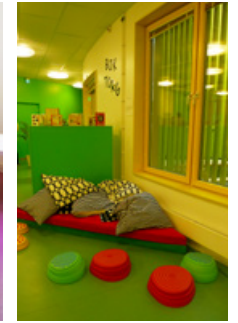
それは、美しいデザインが、ホテルや商業施設などの特別な場所ではなく、
誰にとっても身近な場所にあるからです。



北欧デザインの魅力②

インクルーシブなデザイン

ストックホルムの診療所を訪ねた時、あまりの心地よさに驚いたことがあります。ブルーを基調にしたマリンテーマのインテリアと、北欧の有名な家具が置かれた待合室は、そこにいただけでワクワクした気分になりました。公共の病院や保育園、高齢者施設は、使う人の居心地がよいように、目にも美しいデザインが施されています。北欧が目指しているのは、人は誰でも同じように価値があり、全ての人が同じ恩恵を受けられる社会です。誰も排除されることのない「インクルーシブ」な社会とは、子どもも高齢者も、移民も障がい者も、誰もが疎外感を持つことなく公平に暮らせることで、このような共生社会を築くための環境やインテリアデザインも工夫されています。



©Humana Servicehouse



北欧デザインの魅力③

暮らしの中から生まれるデザイン

北欧各地に暮らす Scandinavian Pattern Collection のデザイナーたち。
北欧の大都市ながら、中世の面影が残されたスウェーデン、ストックホルム。

1年の半分が雪と氷で覆われてしまう北極圏。

まっすぐな地平線が広がるフィンランド中部の西海岸。

それぞれの土地で、四季を通して変化する身近な自然や、

日々の暮らしでの小さなエピソードの中から、

デザイナーたちにはさまざまなパターンが思い浮かんできます。

目の前に広がる田園風景がインスピレーションになったり、

庭に艶やかに咲いた花をアレンジしてみたり。

パターンのソースは、そんなふうにも、

日々の暮らしから何気なく見つけています。



Sofie Staffans-Lytz



Johanna Högvåg



Amsell Berlin

How Scandinavian Pattern Collection started

2013年、小さなきっかけから、ふたりの新しい挑戦が生まれました

どんな思いで Scandinavian Pattern Collection の事業を始めたのですか？

ブルセリド 私はスウェーデンのストックホルムに20年以上暮らしています。北欧ではデザインはみんなのためのものであり、美しいデザインが暮らしに溶け込んでいることに感銘を受けました。そんな中でも、憂鬱になりがちで暗くて長い冬に、ワクワクした気分にしてくれる華やかなパターンが多いことに気がつきました。また、海外から見ても日本のモノづくりの質は高く種類も豊富なので、北欧のパターンデザインと日本の製造メーカーをつなげたら世界一素晴らしいものができるのではないかと思います。東京のスウェーデン大使館のイベントで幸子さんと出会い、同じ思いを抱いていることを知って一緒に活動することを決めました。

今泉 私は、2005年頃から北欧関係の仕事に関わるようになりました。特に、2010年に今の会社を設立してからは、北欧と行き来することが増え、北欧デザインの魅力に触れる機会が増えました。北欧デザインというと、建築や家具、インテリア用品というイメージだったので、自分自身が関わる分野ではないと思っていましたが、北欧のパターンデザイン（北欧の文様）

をブランド化して、日本のモノづくりへの橋渡しをすれば、素晴らしい商品を生み出せると思いました。

デザイナーたちはどのようにして集めたのですか？

今泉 最初に事業を計画しながら思ったことは、単にエージェントとしてデザインを売るのではなく、みんな一つのチームとなって取り組みたい、ということでした。そのころ北欧でも日本文化が注目されていたこともあり、Scandinavian Pattern Collection のキックオフプロジェクトとして、北欧デザインの手ぬぐい展を企画しました。その説明会の告知や集客は由香さんにお任せしました。

ブルセリド 北欧のデザインイベントに足しげく通っていて多くのデザイナーと面識があったので、デザイナーに声をかけることはそう難しいことではありませんでした。日本に興味を持っているデザイナーは多く、最初にチャレンジした手ぬぐい展に参加したいというデザイナーは思った以上に多かったです。

今泉 私も説明会に行きましたが、約50名ものデザイナーが集まって驚きました。そして、幸運なことにその約半分が Scandinavian

Pattern Collection のメンバーとなりました。また、東京のスウェーデン大使館で開催した手ぬぐい展も予想以上の反響で、こじんまりと二人で始めようとしていた事業が急に現実的なものとなりました。私たちを信じて参加してくれたデザイナーたちには本当に感謝しています。

この事業を進める中で一番の苦労はどんなことですか？

今泉 日本のビジネスに対するデザイナーたちの期待がとても大きいので、どうすれば彼らに満足してもらえるのか、を考え、それを実現させていくのが一番の苦労です。デザイナー集団としてブランド化している一方で、一人ひとりの個性を生かし、それぞれに合った会社とマッチングさせなければいけないので、そのバランスをどう保つかが大変です。

ブルセリド 日本と北欧とでは仕事の進め方が全く異なるため、デザイナーに理解してもらうのに苦労することがあります。特に休みの取り方には大きな違いがあり、1ヶ月以上夏休みを取るデザイナーたちと仕事の調整をするのは大変です。とはいえ、フリーランスのデザイナーたちは協力的で、サマーハウスにいても連絡が取



れるのは助かります。会社員だったら、夏休みの間は全く連絡が取れないのが通常です。

逆に一番やりがいを感じたことや、成功したことは何でしたか？

今泉 おかげさまで多くの企業とお仕事をさせていただくことができ、いろいろな商品が世の中に発表される時はとても嬉しいです。もうひとつ、私たちが力を注いでいる北欧と日本の文化イベントも、ビジネスと直結するわけではありませんが、大きなやりがいの一つです。文化的側面から北欧と日本を見つめ直す機会を持つことで、いろいろな気づきがありますし、日本の産地とのつながりが生まれ、ものづくりについて深く知ることができます。そして、展覧会を実施することで、多くの人々との出会いがあり、そこから時間をかけて上質なビジネスが生まれます。

ブルセリド 有能なデザイナーが多く、予想以上の素晴らしいデザインを見せてくれる時はとてもやりがいを感じます。文化イベントには多くのデザイナーが興味を示していて、いつも素敵なデザインを提案してくれます。また、デザイナーたちが日本に興味を持ってくれることも有り難いです。文化イベントのために来日したデザイナーも多く、家族連れで来てくれた人もいて、みんな日本が大好きになってくれました。文化イベントは、北欧デザイナーに日本の伝統文化を伝えるよい機会だと思っています。てぬぐい、一汁一菜、刺し子、茶道具、江戸更紗と毎回の文化イベントを伝えるたびに深い興味を示してくれました。日本の伝統文化を知ること、デザイナーたちの知識や感度も高まっています。





北欧と和の文化イベント

北欧と日本の美意識や精神性は似ているところが多く
お互いに魅力を感じ刺激を受け合っていますが、
それぞれに表現方法が異なります。
私たちは、日本と北欧をつなぐ文化プロジェクトを企画し、
コラボレーションによる新しい表現を模索しています。



Scandinavia and Japan Cultural events



スウェーデン大使館での展覧会（東京）

PB

北欧デザイナー23人による手ぬぐい展 北欧流おもてなし 「FIKAの心」

2013年の流行語大賞「おもてなし」。日本文化の象徴的価値として注目されましたが、現在の日本の都市部で生活している私たちにとって、北欧の人々のおもてなしは実は日本以上ではないかと感じることがあります。FIKA（フィーカ）というのは、スウェーデンの生活に根づいている「お茶の時間」のことで、10時と3時には必ずと言っていいほどFIKAを楽しみ、小さなお茶菓子とコーヒーがあれば、会話が弾み、心が通い合います。初めての文化イベントは、FIKAをテーマに取り上げ、デザイナーたちはそれぞれの解釈でデザインに表し、シンプルな日本でぬぐいに仕上げました。



PB



スウェーデン大使館でのテーブルコーディネート

PB



DS

道端のクローバーがモチーフの一汁一菜の器。この飯碗はいちばん人気となり、パターンはのちにさまざまな商品にも採用された。



RM



RM



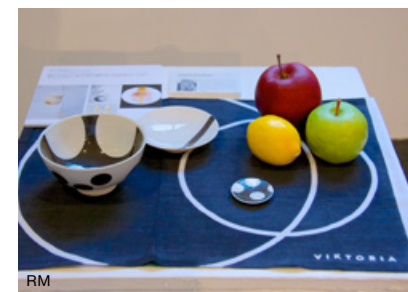
RM

北欧デザイナーによる一汁一菜の器

「DUKA」 北欧流 シンプルな食卓

ユネスコ無形文化遺産にも選ばれ、最近では世界中の人々が日本食を好んでいます。なかでも北欧は、新鮮な海産物が採れる海洋国でもあるため、現地にも日本料理店がとても多く、SUSHIの看板は至るところに見られます。ところが、SUSHI、TEMPURA、SASHIMIなどは有名でも、私たちがふだん食べている一汁一菜、一汁三菜、というような言葉はほとんど誰も知らないのが現状です。そんなあるとき、私たちがデザイナーさんのお宅を訪問したとき、素敵な器とテキスタイルをあしらったテーブルセッティングで、地元のベーカリーとフレッシュバター、じっくり煮込んだスープ、そして板チョコ、というとてもシンプルなメニューのランチでもてなしを受け、感銘を受けました。そして、和食の基本である一汁一菜を、北欧スタイルのテーブルセッティングの力で演出してみよう、と思ったのが、この企画の出発点です。日本の日常食器として長い歴史を持つ波佐見焼で飯碗、豆皿、箸置きを3ピースを、手ぬぐいを2-WAY テーブルマットとしてデザインし、スタイリング提案をしました。DUKA (デューカ) はスウェーデン語でテーブルセッティングのことです。

スウェーデン大使館（東京）での展覧会。数人のデザイナーが来日し、各自のデザインについてギャラリートークを行った。



RM

線と円というグラフィックの基本を調和させ、テーブルセッティング上に表現した「フードグラフィック」

北欧デザイナーによる SASHIKO

「UNIK」北欧デザインの原点

北欧デザインは、この数年来の人気ブランドの流行や幸福度調査の結果などによって、自然豊かで幸福度の高いデザイン重視の国々、というイメージが浸透してきました。それはその通りなのですが、世界地図のなかで北欧を眺めているのではなく、カメラをどんどんズームアップしていくと、そこには、個性豊かな人々が自分スタイルで心地よい暮らしをしているのが見えてきます。私たちのデザイナーたちも、自分の歴史や背景、毎日の暮らしのなかからインスピレーションを受け、デザインを生み出しています。第三弾のイベントは、デザイナー一人ひとりの心の原点をテーマにし、厳寒で質素な東北地方の生活の中からは生まれた美の象徴として、日本の刺し子デザインに表現しました。UNIK(ユニーク)とは、一人ひとりの個性、一つひとつの価値を尊重した言葉です。

湖に囲まれた街の様子を描いたパターンを刺し子で表現。



左はストックホルムで開催されたインテリアフェア Formex にゲスト出展した時の展示。右はスウェーデン大使館（東京）での展覧会。



モダンとナチュラルライフが混ざり合ったストックホルムの Hornstull 地区の地図を刺し子で表現。

FIKA を楽しむ北欧デザイナー 20 人の茶道具 「SKÅL」うつわで乾杯!



2018 年は、「日本・スウェーデン外交関係樹立 150 周年」という節目の年でした。タイトルとして使用されている SKÅL (スコール) という言葉は、スウェーデン語で「器」、「乾杯!」という二つの意味を持つ言葉です。人と人との信頼関係を象徴するキーワードとして、日本における「茶の湯」の精神と、スウェーデンにおける「FIKA」の精神の共通点に注目し、北欧デザイナー一人ひとりが感じる北欧各地の自然や暮らしをテーマにして、北欧デザインの茶道具に挑戦しました。モノづくりにも特別なこだわりを追求し、日本各地の産地の方々と 2 年がかりの協力体制でテーマにかけて作り上げました。もっと自由にもっと心地よく、もっと日常茶飯事に、コーヒーやお茶を楽しんでいただくきっかけになればという思いで企画したプロジェクトです。



左は京町屋「正庵」を借り切ったの展覧会。右上はストックホルムの茶室「瑞暉亭」での茶会。右下はスウェーデン大使館（東京）での展覧会。



フィンランド西海岸に暮らすデザイナーが、夏の終わりに摘んだベリーの思い出をお茶碗のデザインに表現した「夏の味」



LR

道路が複雑で人が混みあっている一方で、時間が止まったかのような静かな自然もある東京。そんな大会のコントラストを表現した「フレッシュブリーズ、東京ストリート」

北欧デザイナー 10人による江戸更紗 美しい TOKYO

美しく上質なテキスタイルが豊富な北欧。日常生活のなかで美しいプリントテキスタイルをうまく取り入れて暮らす北欧の人々の様子は、いつもとても素敵で魅力的で、私たちが学ぶところがたくさんあります。

プリントの歴史は、紀元前にインドで発祥した多色柄の木綿生地「更紗」までさかのぼりますが、更紗とはインドの言葉で美しい布のことだそうです。更紗は、西は西欧を経由して北欧へ、東はシルクロードを経由して日本へと広がっていきました。日本では、各地でいろいろな独自の手法へと引き継がれましたが、多数の型紙を重ねて作られる江戸更紗は、江戸の町人文化とともにひろく発展し、東京の伝統産業となりました。

文化イベント第五弾は、東京2020オリンピック・パラリンピックを機に、北欧のデザイナーたちから見た東京を「美しいTOKYO」というテーマで表現し、江戸更



紗の反物を製作しました。あいにく、コロナの影響で、予定されていたスウェーデン大使館（東京）での展覧会開催は中止となり、ウェブ上での発表となってしまいました。北欧フィンランドのプリント発祥の地、フォルッサのミュージアムで発表する機会をいただくことができました。



選りすぐりの10人の北欧デザイナーが描いた「美しい TOKYO」を、東京の染色工房での手作業によりていねいに表現。



刷り上がった反物は、伝統の着物とオリジナルデザインの着物ドレスに仕立てた。デザインは、ヤマモトタケシ氏。



ハンカチ (アンジェ限定、アルコデザイン)

多岐にわたる 活動と展開

2014年に初めての商品が誕生して以来、Scandinavian Pattern Collectionは皆さまに支えられながら、多岐にわたる分野で次々と商品を展開し、売場プロモーション、イベント、SNSを中心

とした広報活動によって、その情報は日本、北欧、そしてその他の国へと徐々に広がっています。デザインは単独で美しいものではなく、それがモノづくりのなかで生かされ、ユーザーに使

われてこそ、その本当の力が生まれます。これからも多くのビジネスを通して、Scandinavian Pattern Collectionのデザインの魅力を、暮らしの中にお届けしたいと思います。

Business Opportunities

Scandinavian Pattern Collection



- 眼鏡フレーム (サンリーブ)
- 美濃和紙の懐紙 (アンドフィーカ)
- カーテン (サンゲツ)
- エプロン (ナイガイ)
- ペンケース (パイロット)
- ワンタッチマグボトル (三好製作所)
- コースター (AQUA)
- 寝装品 (西川)
- koriko x Scandinavian Pattern Collection 傘(小川)
- ポチ袋 (マルアイ)
- カーディガン (スクロール)
- トレイ、コースター、マグカップ (ロフト限定、アンドフィーカ)
- 紙コップ (サンナップ)
- ストール (ユニクロ)

北欧デザインは寝具市場においても定番のデザインテイストの一つとして定着し、生活者からのニーズも高いと感じています。弊社ではSPCのデザインを寝具に展開しており、お客様からご好評をいただいております。以前、羽毛ふとんの企画においてクラシックなペイズリーデザインから明るく元気なイメージのSPCに変えたことがありました。当初、バイヤーからは戸惑いの声が多かったのですが、発売後のお客様からの反響がとても良く、すぐに追加生産をしたことがありました。まさに北欧デザインの人気の高さを実感した出来事でした。日本で特に好まれる北欧のテキ



スタイルデザインは、ほっこり優しいイメージのデザインです。そこにプラスしてデザイナー達によるデザインストーリーや北欧のライフスタイルをリアルに感じられると、よりデザインへの理解が深ま

り企画が豊かなものになると感じています。今後も素敵デザインが届くことを期待しております。

西川株式会社
マーケティング戦略部 デザイナー
片岡 美歌 様

お客様の声

北欧のテキスタイルデザインは湖や森などの自然に囲まれた風土、自然と共存してきた北欧ならではの優しさにあふれています。配色もナチュラルなトーンなので、普段柄物をあまり手に取られない方も無理せずおしゃれを楽しめると共にエイジレスな点も人気の理由だと思います。初めて北欧テキスタイルデザインで商品を作った時、今までと違う優しい雰囲気となり、日本のデザインにはない違い（魅力）を感じました。

アンドフィーカさんは北欧デザインの提供だけでなく、北欧のラ

イフスタイルやその国々の特徴を熟知しており、どんな背景があって、どんなデザイナーさんの思いがあるのか等、デザイン以外の情報を頂ける点も魅力です。

また、イメージマッチするデザインの提案はもちろんですが、デザイナーさんとの良好な関係を築いていらっしゃるの、一からの描き起こしや、アレンジもしていただけ、お客様に合った提案ができる所がとても助かっています。

株式会社 ハルメク
通販本部 ファッション課
浅野 永 様

私 とアンドフィーカ様との出会いは2014年、失礼ながら偶然に立ち寄ったScandinavian Pattern Collectionの展示会ブースでした。数十人のデザイナーが描いたテキスタイルデザインが展示されておりました。

そこで、北欧のデザイナーたちが、どんな意図でその柄を描いたのか、テキスタイルパターンを通して日本とは違う北欧の気候や風土、異なる文化をどのように表現しているのか説明され、その瞬間、傘のメーカーである私たちが本物の北欧のレイングッズを作ることにつながるのではないかと直感しました。アンドフィーカ様も私たちのモノづくりの考えをすぐに理解下さったため、即決でお取引を

お願いし、翌年2015年の春には商品をデビューさせることが出来ました。

2018年には、アンドフィーカ様とフィンランド、スウェーデンのSPCデザイナーの工房を訪問させてもらい、直接デザイナーさんにデザインの想いなどを聞ける機会も頂きました。その時の現地での出会いや経験が、現在の企画にとっても生きており、これもアンドフィーカ様のアテンドやブルセリドさんによるセッティングなど、きめ細やかなご対応のおかげと感謝いたします。今後も同じ価値観、同じワードを共有してお付き合いさせていただきます。よろしくお願いたします。

株式会社小川 代表取締役社長
小川 恭令 様



Clients' voices

今回「Sotto」という新商品のデザインについてアンドフィーカ様に依頼をしました。はじめは、「遠い異国の地にお住まいの方に自分たちの想いを正確に伝えることができるのだろうか」「そもそも自分たちのような小さな会社が相手をしてもらえるのだろうか」と不安が大きかったので、スタッフの皆様はただ情報を翻訳して取り繋ぐのではなく、弊社の商品にける想いや熱量もしっかり汲み取ってデザイナーの方にお伝えいただけたいと思っています。こちらはそもそもデザイ

ナーさんに何かをお願いするのが初めてのことで近視眼的になってしまうシーンもありましたが、「ちなみに向こうの国の考えでは…」と視野を広げる的確なアドバイスをいただき、最後はとても素晴らしいデザインに仕上げることができました。ご尽力いただいたアンドフィーカ様とデザイナー様の想いに応えるべく、北欧デザインの魅力をよりいっそう発信していきたいと思っています。

佃島製罐株式会社
石川 貴也 様



Scandinavian Pattern Collectionの
個性豊かな30名のデザイナーたち



Amsell Berlin
アムセル・ベルリン



Anna Berger
アンナ・バリエ



Anna Lindsten
アンナ・リンドステン



Anna Hörling
アンナ・ヘーリング



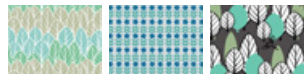
Ann Charlotte Ridderstolpe
アン・シャロット・リッデルストルペ



Anneli Ohlsson
アネリー・オルソン



Annika Huett
アニカ・ヒュエット



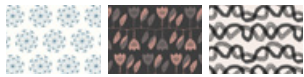
Elina Rebers
エリーナ・レベシュ



Gruffman & Nilsson
グルフマン & ニルソン



Ingibjörg Hanna Bjarnadóttir
インギビョルク・ハンナ・ビャルナドットテ



Ingela Jondell
インゲラ・ヨンデル



Jenny Wallmark
ジェニー・ヴァルマルク



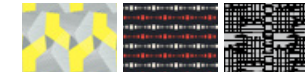
Johanna Högväg
ヨハンナ・ヘグヴェグ



Johanna Örn
ヨハンナ・エーン



Julia Bristulf
ユリア・プリストゥルフ



Julia Heurling
ユリア・ヘウリング



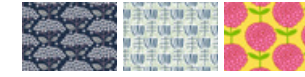
Kajsa Rolfsson
カイサ・ロルフソン



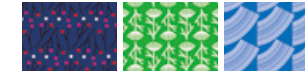
Karin Olu Lindgård
カーリン・オール・リンドゴード



Katarina Lernmark
カタリーナ・レーンマルク



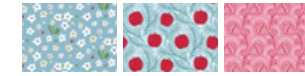
Linda Svensson Edevint
リンダ・スヴェンソン・エデヴィント



Maja Modén
マヤ・モデーン



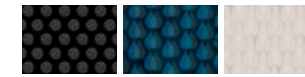
Maria Brattberg
マリア・ブラットベリ



Maria Larsson
マリア・ラーション



Marlene Sandblom Ek
マレーン・サンドブロム・エーク



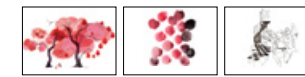
Pompe Hedengren
ボンベ・ヘーデン gren



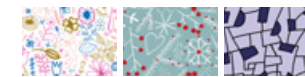
Sofie Staffans-Lytz
ソフィ・スタファンス・リュッツ



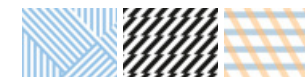
Solvejg Makaretz
ソルヴェイ・マカレツ



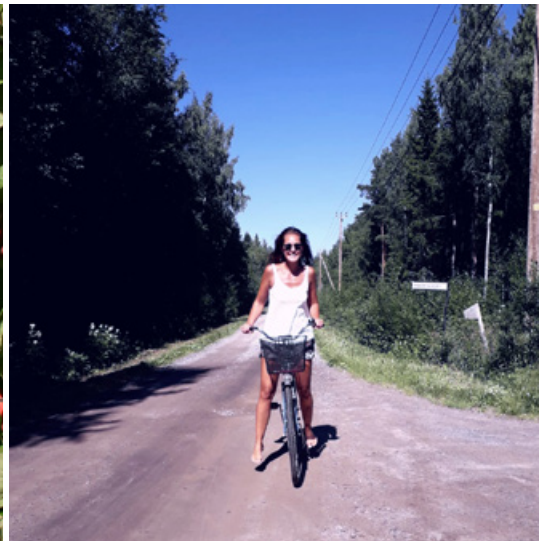
Stina Wirsén
ステイーナ・ヴィルセン



Tina Backman
ティナ・バックマン



Viktoria Hamberger
ヴィクトリア・ハムベリエ





July 2022

Photographers

LR:Lars Rebers

PB:Peter Bruselid

RM:Rieko Mise

DS:David Schreiner

JL:Johannes Lif

Editorial designer

Tao Maruyama

ブランドについてのお問い合わせ先

株式会社アンドフィーカ

〒153-0064

東京都目黒区下目黒 5-3-13

TEL 03-6721-9090

FAX 03-6721-9091

E-mail info@andfika.co.jp



今泉幸子

株式会社アンドフィーカ代表取締役

児童書出版社での絵本編集者としてキャリアをスタート。著作権管理部門でライセンスビジネスに出会い、以来30年以上にわたり、ブランディング、マーケティングのほか、クリエイティブな視点での日本市場でのビジネス開拓を行ってきた。2005年にスウェーデンの子どもの本のライセンスビジネスをきっかけに、北欧とのつながりが生まれ、2010年に北欧ブランドに特化したライセンス会社を設立。持ち前の好奇心と行動力を強みとして、さまざまな北欧関連ビジネスに精力的に取り組んでいる。

ブルセリド由香

スウェーデンスタイル・コム主宰

1998年よりスウェーデンのストックホルム在住。2002年に日本初の北欧デザイン情報サイト「スウェーデンスタイル・コム」を創設し、北欧デザインとライフスタイル情報を発信。2005年に「北欧スウェーデンの幸せになるデザイン」の出版を機に、ストックホルムでSwedenstyle社を起業。その後は輸入社や北欧関連企業との仕事に携わる。北欧現地のデザイナーとのネットワークがあり、MUJI スウェーデンのプロジェクトに関わる等、日本と北欧の架け橋として活躍中。